

多雪農山村地域における親雪の取組み—震災犠牲者追悼「雪あかり木島平」の実施—

西田徹也（木島平村役場）・○山口健太郎（木島平村教委）・内藤正巳（木島平村役場）

1. はじめに

雪が生活や生業に大きな支障をもたらしている現代の多雪農山村地域では、住民が雪に対して良い印象を持てず、ひいては自らの地域に愛着や誇りを持つことができなくなっている。これを打開するには、住民の雪に対する捉え方を変えることが必要といえる。そのきっかけ作りの場としては、大規模な観光イベントではなく、家族や集落を対象とした小規模な取組みが有効と考えられる。そこで著者らは、長野県木島平村においてスノーランタン¹⁾を用い、東日本大震災等の犠牲者追悼を目的に「雪あかり木島平」を2012年3月10日に行ったので、その取組みを報告する。なお、著者らは、総務省の「地域おこし協力隊」制度により、都市域から木島平村に任期付で移住し、地域活性化等の取組みに携わっている。

2. 企画

スノーランタンは、雪を筒状に加工して作った灯籠であり、くずかごと一升瓶を使用して簡単に作ることができる。このスノーランタンを、木島平村往郷地域にある根塚と呼ばれる小高い丘の斜面全体に並べ、灯りを灯す企画を立てた。そして、村内ケーブルテレビ等を利用し、企画を広告した。同時に、各家庭でもスノーランタンを作り、全村で震災犠牲者を追悼することを呼びかけた。

3. 実施状況

当日（3月10日）は、日中にスノーランタンを作成した。作成にあたっては、図1に示すように、親子など数多くの方が駆け付け、作業に参加された。そして、5時間で約400個のスノーランタンを作ることができた。夕方からは、スノーランタンにろうそくを入れ、点灯作業を行った。点灯が完了すると、スノーランタンの灯りが根塚を埋め尽くした。図2に点灯後の様子を示す。ろうそくの灯りは約2時間灯り続け、訪れた方は雪を通したやさしい灯りを楽しむとともに、震災犠牲者の冥福を祈っていた。日中と夜を合わせて、延べ33名が参加された。一方、自宅で家族と一緒にスノーランタンを作られた方もおり、「簡単にできて、しかも、きれいだった」、「震災犠牲者に追悼の気持ちが届いたのでは」などの感想を寄せていただいた。

4. 総括

本取組みの特徴は、村外出身者が企画し、村民を巻き込んで実施したことである。同様の取組みは、山形県最上町でも行われており、著者らと同様の地域おこし協力隊員が観光協会と連携し、草原に1000個のスノーランタンを灯す「灯々祭」が2012年3月17日に実施された²⁾。このように、寡雪都市地域から来た者の雪に対する新鮮な見方は、多雪農山村地域住民の雪に対する印象を変えるきっかけを提供できる可能性がある。著者らは、今後も継続的に取組みを行い、村民が雪に親しみ、雪を貴重な地域資源として捉えられるきっかけ作りの場を提供したいと考えている。なお、ご協力いただいた村民各位、および実施にあたり便宜を図っていただいた木島平村役場関係各位に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 日本雪氷学会北海道支部設立50周年記念誌編集委員会（編）：雪氷教育レシピ。雪氷研究の系譜—北海道の雪氷から世界の雪氷圏まで—，日本雪氷学会北海道支部，pp. 239-258，2009。
- 2) 灯々祭—とうとうさい—，<http://toutou-festival.jimdo.com/>（2012.4.3閲覧）。



図1 親子でのスノーランタン作り
の一場面。簡単に作れること
を実感した様子だった。



図2 点灯後の様子。離れた場所か
らでも灯りが確認でき、美しい
光景を演出した。